

# 栃木県立美術館

## アートクルーズ事業による来館機会の提供 「美術鑑賞バスを使ってみませんか」

### 【連携の特徴（経緯）】

栃木県立美術館では、学校との連携事業として、美術鑑賞無料バス貸出し「県美アートクルーズ」事業を行っている。

学習指導要領等において学校の図工・美術の時間における鑑賞の重要性がうたわれ、一部の学校では美術館の活用が行われるようになってきている。その一方、交通手段を確保できないために利用が困難な学校も存在している。

そのような中、栃木県立美術館は、少しでも交通手段確保の問題を解消して、多くの児童生徒たちに美術作品を体感し、また、現場の教職員にも鑑賞活動のより有効な指導法を模索してもらうことを目的に、平成20年度から県公用バスを無料で貸出す事業を展開している。平成20年度は、小学校5校、中学校2校、高等学校6校、計600名を超える児童・生徒、教職員が来館し、美術品と出会う体験をしている。

県美術館年4回の企画展の時期に合わせ、実施している。

### 【学校との連携事業の実際】

栃木県立美術館では、「県美アートクルーズ」事業以外にも、学校との連携をすすめるための取組として、以下のことを実施している。

#### ①「教師のための土曜講座 -美術鑑賞指導のいろ・ろ・はVI-」

教員対象の研修会を年4回実施した。主に対話を中心とした鑑賞のしかた、美術館の利用のしかた、美術に関する疑問等について実習・意見交換を行ったり、鑑賞の事前学習用ツールを体験し、「鑑賞の時間」の流れや組み立て方について考えたりする活動を行っている。

この事業は、栃木県総合教育センターとの連携事業であり、「総合教育センター土曜開放講座」のプログラムとして提供されている。

#### ●「教師のための土曜講座-美術鑑賞指導のいろ・ろ・はVI-」(栃木県立美術館)

対象 ○回	教科等名 講座名	概要	定員 時間	実施日
小中高特講師	教師のための土曜講座 -美術鑑賞指導のいろ・ろ・はVI-(1) ビジュッってだし算	躍動する魂のきらめき-日本の表現主義-を鑑賞した後、主に対話を中心とした鑑賞のしかた、美術館の利用のしかた、美術に関する疑問等について実習、意見交換を行います。	20人 半日	2009年 5月23日(土) PM 1:00~
小中高特講師	教師のための土曜講座 -美術鑑賞指導のいろ・ろ・はVI-(2) ビジュッってひき算	「中国現代美術との出会い-日中当代芸術にみる21世紀的未來-」を鑑賞した後、鑑賞の授業や休業中の課題などを想定し、実際にワークシートを作り、お互いに検証してみます。	20人 半日	2009年 7月25日(土) PM 1:00~
小中高特講師	教師のための土曜講座 -美術鑑賞指導のいろ・ろ・はVI-(3) ビジュッってわり算	「-日本画創造の苦悩と歓喜-大正期、再興院展の輝き」を鑑賞した後、ワークシートや鑑賞用のツールを使った鑑賞を体験していただき、鑑賞の授業における評価について、一緒に考えてみたいと思います。	20人 半日	2009年 11月21日(土) PM 1:00~
小中高特講師	教師のための土曜講座 -美術鑑賞指導のいろ・ろ・はVI-(4) ビジュッってかけ算	「魅力再発見！ニッポンの油絵」を鑑賞した後、鑑賞の事前学習用ツールを体験していただき、「鑑賞の時間」の流れや組み立て方について一緒に考えてみたいと思います。	20人 半日	2010年 2月13日(土) PM 1:00~

※それぞれ独立した催しです。好きな回に参加してください。また、校種や教科は問いませんので、県内の先生であればご参加できます。

## 【成果と課題】

- アートクルーズ事業により、距離的に利用の困難な学校に対して、広域的に美術作品に触れることができる機会の拡大につながっている。
- 研修会は、教師が、子どもをたちを「アートクルーズ」で美術館に連れてくる際の良い事前学習となっているとともに、教師自身の作品を見るを養うことができる。
- 今後は、各事業や企画などの学校への広報・周知の在り方が課題となっている。

## 《施設データ》

館名：栃木県立美術館  
所在地：〒320-0043  
栃木県宇都宮市桜4-2-7  
TEL：028-621-3566  
FAX：028-621-3569  
設置年：昭和47年  
設置主体：栃木県教育委員会（生涯学習課）  
知事部局（県民生活部 県民文化課）  
ホームページ：<http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>  
入館者数：平成20年度 66,397人



## 「あーとネット・とちぎ」の取組

「あーとネット・とちぎ」は、平成17年8月、栃木のアートシーンを活性化するため、県内の美術関係者によって設立された。学芸員等美術館関係者、小・中・高その他学校関係者、大学生・院生・大学教授等を含む大学関係者を中心に組織され、それぞれ立場が違う人同士が美術鑑賞教育という接点で連携することを目的としている。それぞれが独自に活動でき、情報交換の場が提供でき、協働できることが目標になっている。美術鑑賞教育の情報交換の場、研究の場というだけではなく、美術作品の鑑賞をこどもたちと一緒に楽しむことを目指している。「あーとネット・とちぎ」では、美術関連イベントや美術鑑賞教育に関する実践例、連携・協力例等の情報交換・収集を行っている。

「あーとネット・とちぎ」では、平成18年度より月1回のペースで、有志が定期的に研究会を開催している。平成18年度に、〈ワークシート研究会〉が全8回にわたって開催され、平成19年度には、全12回の〈鑑賞ツール研究会〉が開催されている。そして、平成20年度に〈体験ツール研究会〉の全10回が終了したところで一区切りとし、それまでの課題と研究は、毎月1回を目途に開催される定例会に引き継がれている。平成21年度以降は、定例会において、引き続き「美術鑑賞」についてのさまざまな問題や新たな鑑賞ツールの作成、さらには、平圧式版画用プレス機の製作などをテーマに、話し合いを行っている。